

## 2017年の大雨

### 梅雨前線等の影響で九州北部地方を中心に記録的な大雨

#### 1. 概要

平成29年の梅雨入りは、かなり遅い地方が多かった。東北南部の梅雨入りは6月30日頃で、1951年の統計開始以降最も遅かった。

梅雨明けは、関東甲信以西では早い地方が多く、中国地方と関東甲信地方ではかなり早かった。一方、北陸地方では遅かった。また、東北南部、東北北部では、梅雨明けの時期を特定できなかった。

6月から7月にかけては、日本付近に停滞した梅雨前線や台風等の影響で、各地で大雨となった。特に7

月5日から6日にかけて九州北部地方で記録的な大雨となり、甚大な被害が発生した（平成29年7月九州北部豪雨）。

また、9月には台風第18号や前線の影響で、沖縄・奄美から西日本、北海道地方を中心に大雨や暴風となった。

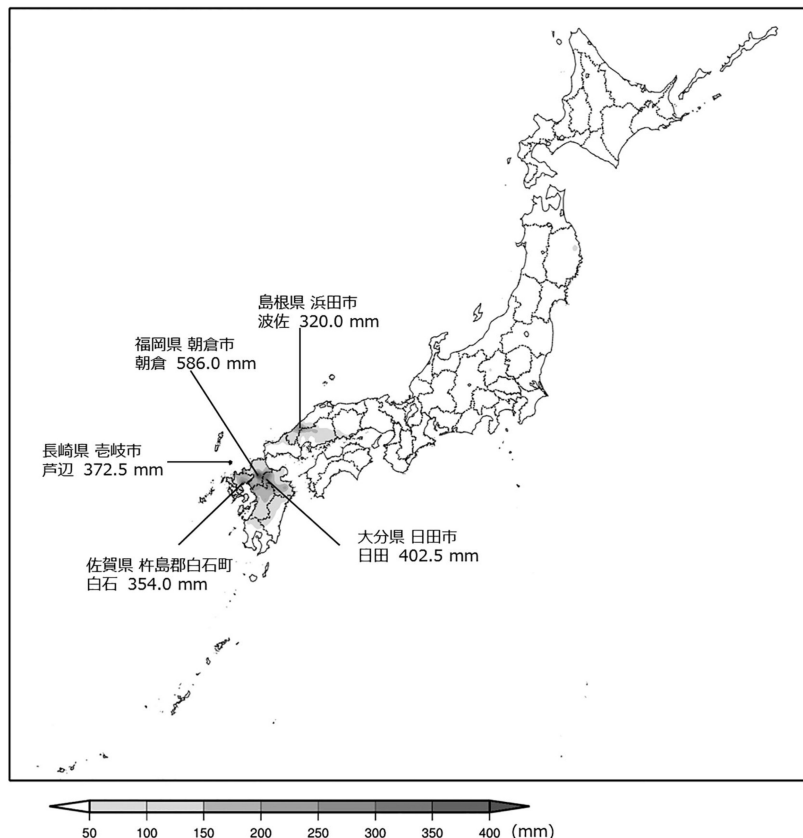
更に10月には、台風第21号及び台風第22号や前線の影響で、西日本から北日本の広い範囲で大雨や暴風となった。

#### 2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。被害状況については、主に気象庁がとりまとめた資料によるが、一部、内閣府等発表の資料も使用した。また、人的被害の数には風等を原因とするものも含まれる。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、都道府県名、市町村名及び地点名とした。

- (1) 4月17日～4月19日：  
西日本から北日本（大雨、暴風、高波）＜低気圧、前線＞

4月17日から19日にかけて、低気圧が発達しながら日本海を北東へ進み、この低気圧からのびる前線が日本付近を通過した。この影響で、高知県の多いところで日降水量が200 mmを超



第1図 総降水量分布図（期間：7月5日～7月6日）。

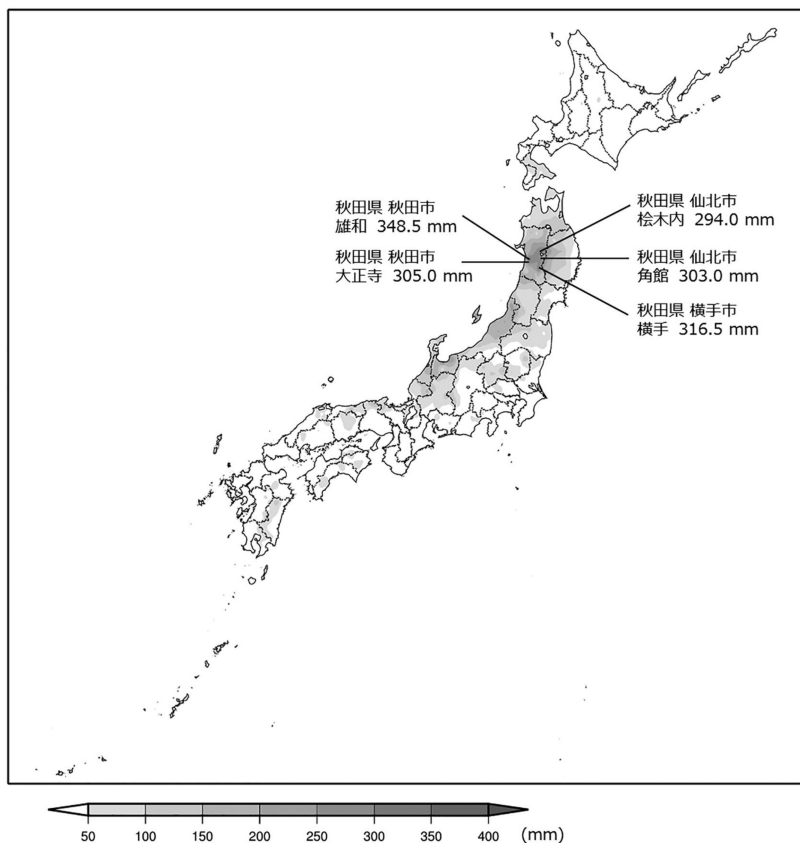
えるなど、西日本から東日本、北海道で日降水量100 mmを超える大雨となった。また、最大風速が高知県室戸市室戸岬で29.8 m/s、山形県酒田市飛島で27.6 m/sとなるなど、西日本から北日本で暴風となり、北日本太平洋側では大しけとなった。

この影響で、西日本から北日本にかけて住家の損壊や農地等への被害、道路の通行止めや鉄道の運休、船舶・航空機の欠航などの交通障害、停電等が発生した（被害の状況は、気象庁調べ）。

(2) 6月7日～7月27日：  
全国（大雨，暴風，高波，突風）＜梅雨前線，台風第3号＞

平成29年6月7日から7月27日の期間中、日本付近に停滞した梅雨前線や台風等の影響で、各地で大雨となった。

6月19日頃から21日頃にかけては梅雨前線上を低気圧が進み、近畿地方の多いところで日降水量が400 mmを超えるなど、西日本を中心に大雨となった。また、6月30日頃から7月6日頃にかけて、梅雨前線の活動が活発となり、台風第3号が日本に上陸し、これらの影響で九州から東北地方で大雨・暴風となった。特に7月5日から6日にかけては活動の活発な梅雨前線が停滞した影響等で、線状降水帯が形成・維持された。このため、猛烈な雨が同じ場所で降り続き、期間中の最大1時間降水量が福岡県朝倉市朝倉で129.5 mmに達し、降り始めからの降水量は、福岡県朝倉市朝倉で586.0 mm、大分県日田市日田で402.5 mmとなり、中国地方でも300 mmを超えるなど、西日本で記録的な大雨となった。第1図には7月5日から6日までの総降水量分布図を示す。気象庁では、九州北部地方で発生した豪雨について「平成29年7月九



第2図 総降水量分布図（期間：7月22日～7月26日）。

州北部豪雨」と命名した。その後7月22日頃から23日頃にかけては、梅雨前線が北陸地方から東北地方に停滞し、東北地方の多いところで日降水量が200 mmを超えるなど大雨となった。第2図には7月22日から26日までの総降水量分布図を示す。このほか、7月16日に埼玉県でガストフロントと見られる突風が発生した。

これらの大雨等の影響で、土砂災害や河川の氾濫、浸水害等が発生し、甚大な被害となった。特に6月30日頃からの梅雨前線による大雨や台風第3号による大雨等では、九州北部地方を中心に、赤谷川等の中小河川の氾濫のほか、土砂災害や浸水害等が相次いで発生し、死者42名、行方不明者2名の人的被害が生じた。また、7月22日頃からの梅雨前線による大雨では、東北地方を中心に河川の氾濫や浸水害等が発生し、雄物川やその支川等が氾濫した秋田県等で住家浸水等の被害が発生した（被害の状況は、平成30年1月17日及び平成29年8月9日の内閣府とりまとめによる）。

(3) 8月3日～8月9日：全国（大雨，暴風，高波，突風）＜台風第5号＞

7月20日21時に南鳥島の北東で発生した台風第5号は、反時計回りに進んだ後、進路を南西に変え、その後、徐々に進路を北西に変えた。台風は、8月5日に屋久島の西海上でほとんど停滞した後、進路を北東に変え、6日02時過ぎに屋久島を通過し、同日09時半頃に種子島を通過した。台風は7日10時前に室戸岬を通過し、同日15時過ぎに和歌山県北部に上陸して、その後も北東に進み、8日には日本海に達した。台風は8日21時に日本海で温帯低気圧となり、その後、9日21時に消滅した。

この影響で、奄美地方では、多いところで日降水量が500 mmを超えたほか、西日本から東日本でも広い範囲で日降水量が200 mmを超える大雨となった。また、奄美地方から東海地方にかけて、太平洋側を中心に風速20 m/s以上の非常に強い風を観測するなど暴

風となり、海は太平洋側で大しけとなった。さらに、台風の接近に伴って大気の状態が不安定となったため、7日に、愛知県で日本版改良藤田スケールでJEF2の強さの竜巻が発生した。

この影響で、死者2名の人的被害が発生したほか、西日本を中心に土砂災害や浸水害等が発生し、住家の損壊や浸水、公共施設や農地等への被害が発生した。また、道路の通行止め、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害、停電、電話の不通等のライフラインの被害が発生した（被害の状況は、気象庁及び、平成29年8月10日の内閣府とりまとめによる）。

(4) 8月11日～8月19日：西日本から東日本（大雨）＜気圧の谷，低気圧＞

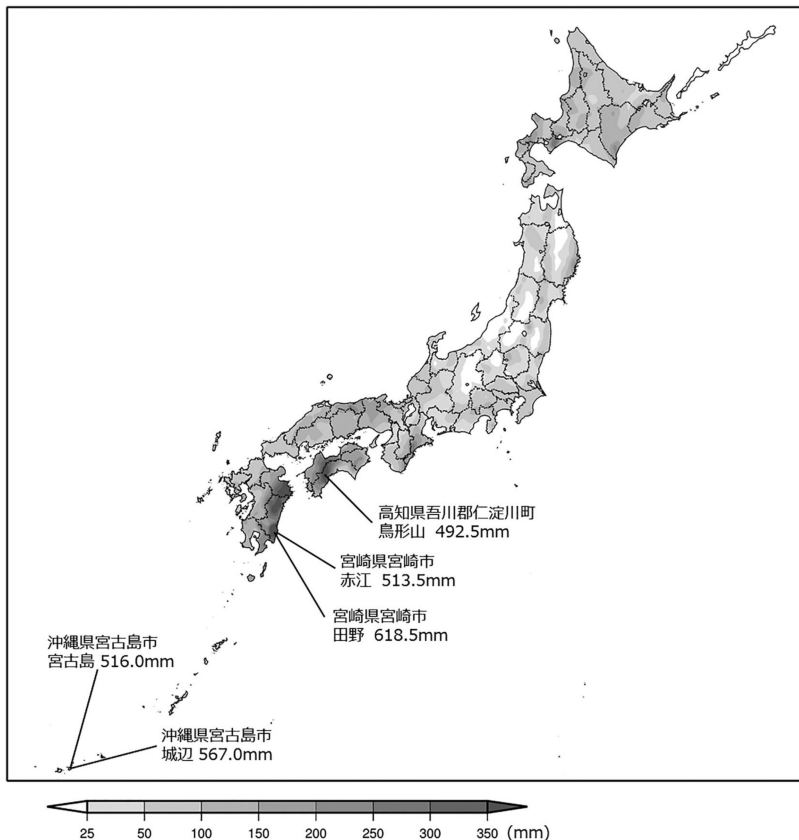
8月11日から19日にかけて、複数の低気圧が連続して日本付近を通過し、大気的不安定な状態が継続した。このため、全国的に雨となり、西日本から東日本にかけて大雨となったところがあった。

この影響で、西日本から東日本にかけて土砂災害や浸水害等が発生し、住家浸水や農地等への被害が発生したほか、道路の通行止めや鉄道の運休などの交通障害、停電等が発生した。また、東京都では落雷による人的被害が発生した（被害の状況は、気象庁調べ）。

(5) 8月30日～9月2日：東日本（大雨，暴風，高波）＜台風第15号＞

8月28日15時にマリアナ諸島の東海上で発生した台風第15号は、徐々に進路を西へ変えた後、小笠原諸島の周辺で2回、反時計回りに進んだ。その後、台風は進路を北東に変え、日本の東を北上した後、3日21時に千島の東で温帯低気圧となった。

この影響で東日本を中心



第3図 総降水量分布図（期間：9月13日～9月19日）。

に雨となった。台風が接近した小笠原諸島では大雨や暴風となり、海は猛烈なしけとなった。

(6) 9月3日～9月4日：沖縄・奄美から西日本（大雨）＜湿った空気＞

9月3日から4日にかけては、日本海に中心を持つ高気圧の縁辺を回る湿った空気が流入した影響で、沖縄・奄美から九州を中心に雨となり、奄美地方の多いところで日降水量が400mmを超える大雨となった。

この影響で、沖縄地方や奄美地方を中心に住家の浸水や停電等の被害が発生した（被害の状況は、気象庁調べ）。

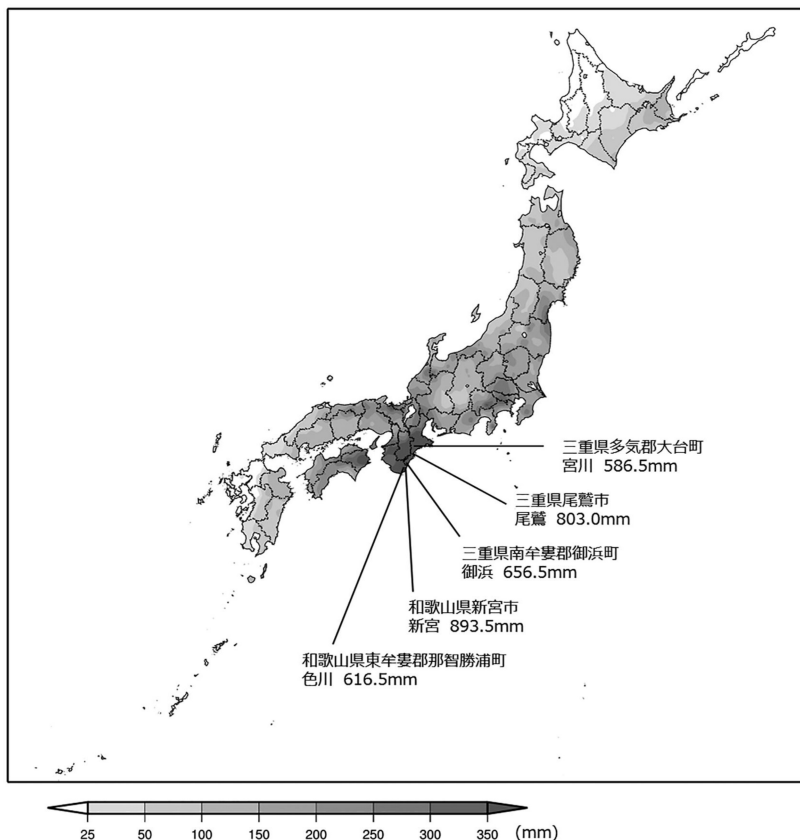
(7) 9月13日～9月19日：全国（大雨，暴風，高波，突風）＜台風第18号，前線＞

9月9日21時にグアム島の北西で発生した台風第18号は北西に進み、13日から14日にかけて宮古島付近を北上した。その後、台風は東シナ海で進路を北東に変え、17日11時半頃に鹿児島県薩摩半島を通過し、同日12時頃、鹿児島県垂水市付近に上陸した後、同日16時半頃に高知県西部に再上陸し、更に同日22時頃に兵庫県明石市付近に再上陸した。台風はその後日本海に抜け、18日03時に佐渡島付近で温帯低気圧となった。

台風第18号や台風から変わった温帯低気圧、日本付近に停滞した前線の影響で全国的に大雨となり、降り始めからの降水量が、宮崎県宮崎市田野では618.5mmを観測するなど、沖縄・奄美や西日本で500mmを超える大雨となった。第3図には9月13日から19日までの総降水量分布図を示す。また、最大風速は高知県室戸市室戸岬で39.1m/s、沖縄県宮古島市下地で38.8m/sとなるなど、

沖縄・奄美や西日本では風速30m/sを超える猛烈な風を観測したところがあり、沖縄地方から北海道地方に至る広い範囲で風速20m/s以上の非常に強い風を観測した。沖縄・奄美から北日本太平洋側では大しけとなり、沖縄・奄美から西日本太平洋側では猛烈なしけとなったところがあった。さらに、台風の接近に伴って大気の状態が不安定となったため、17日に宮崎県で竜巻と見られる突風が発生した。

この影響で、大分県をはじめ西日本を中心に河川の氾濫や浸水害、土砂災害等が発生し、死者5名の人的被害が発生した。住家の浸水や公共施設、農地等への被害があったほか、停電や電話の不通、水道などライフラインへの被害が発生した。さらに、道路の通行止めや鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した（被害の情報は、気象庁及び、平成29年9月22日の内閣府とりまとめによる）。



第4図 総降水量分布図（期間：10月20日～10月23日）。

(8) 10月20日～10月23日：全国（大雨，暴風，高波）＜台風第21号，前線＞

10月16日03時にカロリン諸島近海で発生した台風第21号は、21日から22日にかけて日本の南を北上し、その後、四国沖を北東に進んだ。台風は、23日03時頃に静岡県掛川市付近に上陸した後、関東地方を北東へ進み、23日09時に日本の東で温帯低気圧となった。

台風第21号や台風から変わった温帯低気圧、日本付近に停滞した前線の影響により、西日本から東日本、東北地方の広い範囲で大雨となった。特に近畿地方や東海地方で、降り始めからの降水量が500 mmを超え、和歌山県新宮市新宮では48時間の降水量が888.5 mmを観測し、観測史上1位の値を更新するなど、記録的な大雨となった。第4図には10月20日から23日までの総降水量分布図を示す。また、最大風速は東京都三宅村三宅坪田で35.5 m/s、新潟県佐渡市弾崎で31.9 m/s（いずれも観測史上1位の値）となるなど、西日本や東日本、北海道地方で風速30 m/s以上の猛烈な風を観測したところがあり、沖縄地方から北海道地方に至る広い範囲で風速20 m/s以上の非常に強い風を観測した。海は全国的に大しけとなり、近畿地方から東北地方太平洋側では猛烈なしけとなったところがあった。

この影響で、西日本から東北地方の広い範囲で河川の氾濫や浸水害、土砂災害等が発生し、死者8名の人的被害が発生した。また、公共施設や農地等への被害、停電や電話の不通、水道やガスなどライフライン

への被害が発生したほか、道路の通行止めや鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した（被害の情報は、気象庁及び、平成29年11月6日の内閣府とりまとめによる）。

(9) 10月27日～10月30日：全国（大雨，暴風，高波）＜台風第22号，前線＞

10月24日21時にマリアナ諸島の西海上で発生した台風第22号は北西に進み、その後、進路を北に変えた。台風はその後、進路を北東に変え、28日14時前に沖縄県沖縄本島付近を通過した後、29日21時に千葉県南東沖で温帯低気圧となり、30日03時に消滅した。

台風第22号や本州付近に北上した前線の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に大雨となり、九州では日降水量が300 mmを超える大雨となったところがあった。また、沖縄地方から北海道地方に至る広い範囲で風速20 m/s以上の非常に強い風を観測した。沖縄・奄美から東日本太平洋側で大しけとなり、沖縄・奄美や西日本太平洋側では猛烈なしけとなったところがあった。

この影響で、西日本を中心に浸水害や土砂災害等が発生したほか、公共施設や農地等への被害が発生した。また、停電や電話の不通などライフラインへの被害が発生し、道路の通行止めや鉄道の運休、船舶の欠航等の交通障害が発生した（被害の状況は、気象庁及び、平成29年11月6日の内閣府とりまとめによる）。

## 気候情報

### 2017年の台風

発生数は平年並、日本への接近数は平年より少ない8個で、そのうち4個が上陸

#### 1. 概要

台風の発生数は平年並の27個（平年値25.6個）であった。日本への台風の接近数は平年より少ない8個（平年値11.4個）であった。日本への台風の上陸数は平年値2.7個より多い4個（第3号，第5号，第18号，

第21号）であった。このうち、台風第5号は、ゆっくりとした速度で複雑な経路を辿ったため、台風の期間は19.00日と長く（平均は5.3日）、1951年の統計開始以来2位タイとなった。

第1表に台風の発生数，上陸数，接近数を，第2表



第1表 平成29年(2017年)の台風発生数、日本への上陸数\*1、日本への接近数\*2と平年値及び平成28年(2016年)との比較

項目	月	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12												年間
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成28年 (2016年)	発生数							4	7	7	4	3	1	26
	上陸数								4	2				6
	接近数							1	5	4	1			11
平成29年 (2017年)	発生数				1		1	8	5	4	3	3	2	27
	上陸数							1	1	1	1			4
	接近数							4	2	2	2			8

(注)・平年値は、昭和56年(1981年)～平成22年(2010年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸\*1 台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合をいう。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

接近\*2 台風が中心が、国内のいずれかの気象官署等から300 km以内に入った場合をいう。

に発生した台風の一覧を示す。

## 2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風(本稿では台風の中心が日本から概ね500 kmに入った場合とする)のうち、主な台風について以下に概要を示す。また、時刻については、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

### (1) 台風第3号(1703 NANMADOL)

7月1日15時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、2日09時に沖縄の南で台風第3号となった。台風は、徐々に進路を北東に変え、3日15時に東シナ海で勢力が最大となった。台風は、4日08時頃、長崎県長崎市付近に上陸し、4日12時過ぎ、愛媛県宇和島市付近に再上陸した。4日17時前、和歌山県田辺市付近に再上陸した後、台風は5日09時に日本の東で温帯低気圧となり、北東へ進んだ後、8日21時に東経180度を越えた。

### (2) 台風第5号(1705 NORU)

7月19日15時に南鳥島の東海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、20日21時に南鳥島の北東で台風第5号となった。台風は、反時計回りに進んだ後、進路を南西に変えた。その後、徐々に進路を北西に変えながら、31日09時に父島の南南西で勢力が最大となった。台風は、8月5日に屋久島の西海上でほとんど停滞し

た後、進路を北東に変え、6日02時過ぎに屋久島を通過し、同日09時半頃に種子島を通過した。台風は7日10時前に室戸岬を通過し、同日15時過ぎに和歌山県北部に上陸して、その後も北東に進み、8日には日本海に達した。台風は8日21時に日本海で温帯低気圧となり、その後、9日21時に消滅した。

### (3) 台風第9号(1709 NESAT)

7月25日15時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北北西へ進み、26日03時に同海域で台風第9号となった。台風は、29日03時に台湾の南東で勢力が最大となり、同日に台湾に上陸して進路を西北西に変えた後、東シナ海を進んだ。台風は、30日09時に華南に上陸し、同日21時に熱帯低気圧となった後、31日09時に同地域で消滅した。

### (4) 台風第10号(1710 HAITANG)

7月27日21時に南シナ海で発生した熱帯低気圧は、29日03時に同海域で台風第10号となった。台風は、30日15時に台湾の南で勢力が最大となった後、台湾に上陸し、31日朝に華南に上陸した。台風は、31日15時に華南で熱帯低気圧となった後、8月1日15時に長江下流付近で温帯低気圧となって北へ進み、3日09時に黄河下流付近で消滅した。

### (5) 台風第13号(1713 HATO)

8月19日21時にフィリピンの東海上で発生した熱帯

第2表 平成29年(2017年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値				熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置,又は域外に出た最初の日時				
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧	風速	月日時	月日時	月日時	km	月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経
1	MUIFA	4 23 03	8.6	143.9	4 26 03	13.1	136.0	4 27 09	1002	4 27 09	18	4 27 09	E:220 W:170	4 27 15	15.9	134.7	4 29 15	22.7	141.8
2	MERBOK	6 10 09	13.0	119.0	6 11 09	16.0	116.8	6 12 21	985	6 12 21	30	6 13 03	E:190 W:150	6 13 09	24.0	115.0	6 13 15	25.5	115.7
3	NANMADOL	7 1 15	15.0	132.2	7 2 09	20.7	127.1	7 4 08	985	7 4 08	30	7 5 03	S:220 N:110	7 5 09	36.1	146.0	7 8 21		域外
4	TALAS	7 14 09	16.0	114.1	7 15 15	16.9	111.7	7 17 03	985	7 17 03	25	7 16 21	N:390 S:330	7 17 21	19.2	100.9	7 18 03	19.5	100.4
5	NORU	7 19 15	26.1	162.1	7 20 21	27.4	159.0	8 1 09	935	8 1 09	50	7 27 15	NE:390 SW:280	8 8 21	38.7	138.5	8 9 15	39.2	139.3
6	KULAP	7 20 09	23.0	178.1	7 21 15	26.4	177.3	7 25 21	1002	7 24 21	20	7 24 09	N:330 S:220	7 26 03	32.0	152.3	7 28 09	27.1	149.2
7	ROKE	7 21 15	18.6	124.3	7 22 15	21.2	119.0	7 23 09	1002	7 23 09	18	7 23 03	90	7 23 15	22.8	113.2	7 23 21	22.9	110.5
8	SONCA	7 21 09	17.5	114.7	7 23 09	17.6	111.6	7 25 15	994	7 25 15	18	7 25 15	60	7 25 21	16.8	106.5	7 29 21	18.0	103.6
9	NESAT	7 25 15	12.8	129.2	7 26 03	14.5	128.3	7 29 21	960	7 29 21	40	7 29 21	SE:390 NW:280	7 30 21	25.6	117.0	7 31 03	25.0	116.0
10	HAITANG	7 27 21	19.2	117.8	7 29 03	18.0	115.8	7 30 15	985	7 30 15	23	7 31 09	S:440 N:220	7 31 15	27.2	117.6	8 3 03	34.1	116.2
11	NALGAE	7 31 15	26.3	158.3	8 2 09	25.6	165.4	8 5 21	990	8 5 21	23	8 5 21	NE:440 SW:280	8 6 03	38.1	160.2	8 9 15	45.2	151.3
12	BANYAN	8 11 03	16.0	170.9	8 11 21	17.3	168.0	8 13 21	955	8 13 21	40	8 17 09	SE:220 NW:170	8 17 15	43.0	176.0	8 18 09		域外
13	HATO	8 19 21	19.1	130.1	8 20 21	19.7	126.9	8 23 15	965	8 23 15	40	8 23 09	S:330 N:220	8 24 21	23.8	104.5	8 25 09		域外
14	PAKHAR	8 24 09	14.9	128.9	8 25 03	15.1	124.9	8 27 09	985	8 27 09	30	8 26 21	560	8 28 03	24.7	108.8	8 28 09	24.1	108.0
15	SANVU	8 27 03	17.8	147.0	8 28 15	19.7	147.3	9 1 21	955	9 1 21	40	9 3 15	750	9 3 21	45.2	154.6	9 6 21		域外
16	MAWAR	8 30 15	18.9	122.0	9 1 03	20.0	118.9	9 3 15	990	9 3 15	25	9 3 15	NE:220 SW:110	9 4 09	23.5	114.6	9 4 15	23.5	113.2
17	GUCHOL	9 3 21	16.1	131.8	9 6 03	20.3	121.1	9 6 15	1000	9 6 21	18	9 6 15	170	9 7 03	22.2	119.1	9 7 21	24.7	119.4
18	TALIM	9 8 21	14.3	147.1	9 9 21	15.4	142.9	9 15 03	935	9 15 03	50	9 17 09	NE:560 SW:440	9 18 03	37.8	138.7	9 23 03	59.5	149.8
19	DOKSURI	9 10 09	14.3	130.0	9 12 21	14.3	119.5	9 15 15	955	9 15 15	40	9 14 15	N:500 S:330	9 16 09	18.6	101.0	9 16 09	18.6	101.0
20	KHANUN	10 11 09	15.5	134.0	10 12 21	18.5	123.3	10 15 09	955	10 15 09	40	10 15 09	SW:500 NE:390	10 16 09	20.3	109.9	10 16 15	20.5	109.3
21	LAN	10 15 15	8.8	137.3	10 16 03	9.7	136.2	10 22 15	915	10 22 15	50	10 23 06	850	10 23 09	37.2	141.5	10 24 03	44.4	155.4
22	SAOLA	10 22 15	9.1	148.3	10 24 21	14.5	139.3	10 29 18	975	10 29 18	30	10 29 09	N:560 S:390	10 29 21	34.8	141.1	10 29 21	34.8	141.1
23	DAMREY	10 31 09	11.0	126.8	11 2 09	12.5	117.7	11 4 09	970	11 4 09	35	11 4 03	440	11 5 03	13.2	105.6	11 5 03	13.2	105.6
24	HAIKUI	11 7 21	10.1	134.2	11 10 09	15.0	119.2	11 11 21	998	11 11 21	20	11 11 21	NW:220 SE:110	11 12 15	17.5	112.3	11 13 09	17.5	110.5
25	KIROGI	11 16 21	7.1	123.6	11 18 09	11.5	115.2	11 19 03	1000	11 19 03	18	11 19 03	110	11 19 09	10.9	110.6	11 19 15	11.0	109.6
26	KAI-TAK	12 14 03	10.8	126.8	12 14 09	11.0	127.4	12 15 15	994	12 21 03	20	12 15 15	330	12 21 21	6.3	108.5	12 24 03	2.7	104.8
27	TEMBIN	12 20 09	8.1	134.2	12 21 03	8.6	130.9	12 24 15	970	12 24 15	35	12 25 15	NW:500 SE:170	12 25 21	8.7	107.7	12 26 15	8.6	103.6

表中の日はすべて日本時(JST)。  
 「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。  
 (但し、風速はノットで解析し、5 m/s単位に換算, 強風半径は海里で解析し、10 km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある)  
 強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15 m/s以上の領域。  
 種類欄の「TD」は熱帯低気圧, 「L」は温帯低気圧を表す。  
 域外とは、日付変更線(東経180°)より東側, 東経100°より西側, 又は北緯60°より北側の領域。

第3表 平成29年(2017年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧, 温帯低気圧の期間は除く).

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500 km 以 内に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300 km 以 内に入った場合)			上陸, 通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
3	7/2	7/5	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 東北地方	7/2	7/5	沖縄地方, 西日本, 東日 本, 東北地方	4日08時頃, 長崎市付近に 上陸した. 4日12時過ぎ, 愛媛県宇和 島市付近に再上陸した. 4日17時前, 和歌山県田辺 市付近に再上陸した.
5	7/28	8/8	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 北日本	7/28	8/8	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 東北地方	6日02時過ぎ, 鹿児島県屋久 島を通過した. 6日09時半頃, 鹿児島県種子 島を通過した. 7日10時前, 高知県室戸岬を 通過した. 7日15時過ぎ, 和歌山県北部 に上陸した.
9	7/28	7/30	沖縄地方	7/29	7/30	沖縄地方	上陸または通過せず.
10	7/30	7/31	沖縄地方	7/30	7/31	沖縄地方	上陸または通過せず.
13	8/21	8/22	沖縄地方				上陸または通過せず.
15	8/30	9/2	伊豆・小笠原諸島	8/30	9/2	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず.
17	9/6	9/7	沖縄地方				上陸または通過せず.
18	9/12	9/18	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 東北地方	9/12	9/18	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 東北地方	17日11時半頃, 鹿児島県薩 摩半島を通過した. 17日12時頃, 鹿児島県垂水 市付近に上陸した. 17日16時半頃, 高知県西部 に再上陸した. 17日22時頃, 兵庫県明石市 付近に再上陸した.
21	10/21	10/23	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 東北地方	10/21	10/23	沖縄地方, 四国地方, 近 畿地方, 東日本, 東北地 方	23日03時頃, 静岡県掛川市 付近に上陸した.
22	10/27	10/29	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 東北地方	10/27	10/29	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 近畿地方, 東海地方, 伊 豆・小笠原諸島, 関東甲 信地方	28日14時前, 沖縄県沖繩本 島付近を通過した.

台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500 km 以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。  
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300 km 以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

低気圧は西へ進み, 20日21時に同海域で台風第13号となった。台風は, ルソン海峡を進んだ後, 23日09時に南シナ海で勢力が最大となった。台風は, 23日夕方に華南に上陸した後, 急激に勢力を弱め, 24日21時に熱帯低気圧となり, 25日09時には東経100度を越えた。

#### (6) 台風第15号 (1715 SANVU)

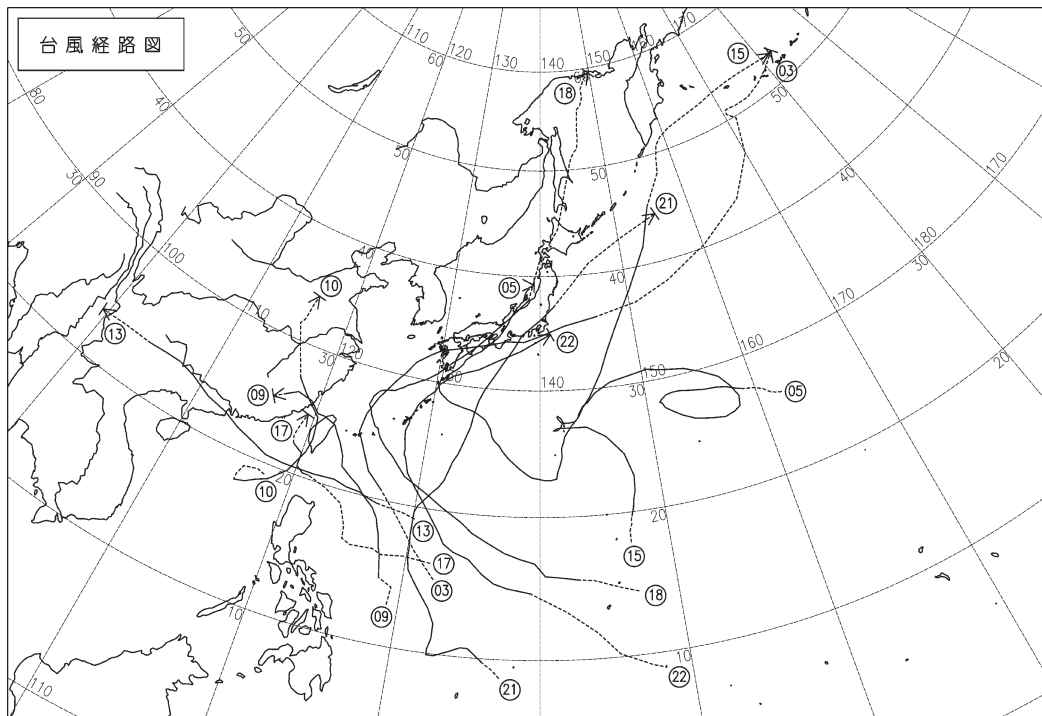
8月27日03時にマリアナ諸島の東海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み, 28日15時に同海域で台風第15号

となった。台風は, 徐々に進路を西へ変えた後, 小笠原諸島の周辺で2回, 反時計回りに進み, 9月1日09時に同海域で勢力が最大となった。その後, 台風は進路を北東に変え, 3日21時に千島の東で温帯低気圧となり, アリューシャン近海を東へ進み, 6日21時前に東経180度を越えた。

#### (7) 台風第17号 (1717 GUCHOL)

9月3日21時にフィリピンの東で発生した熱帯低気





丸で囲った数字は台風番号である。→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

第1図 2017年に日本に影響を及ぼした台風の経路図。

圧は西へ進み、進路を北西へ変えた後、6日03時にルソン海峡で台風第17号となり、勢力が最大となった。台風は進路を北北西に変え、7日03時に台湾海峡で熱帯低気圧となり、北へ進んだ後、8日03時に消滅した。

#### (8) 台風第18号 (1718 TALIM)

9月8日21時にグアム島の北東海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、9日21時にグアム島の北西で台風第18号となった。その後台風は北西に進み、14日09時に石垣島の北海上で勢力が最大となった。台風は、進路を北東に変え、17日11時半頃に鹿児島県薩摩半島を通過し、同日12時頃鹿児島県垂水市付近に上陸した後、同日16時半頃に高知県西部に再上陸し、更に同日22時頃に兵庫県明石市付近に再上陸した。台風はその後日本海に抜け、18日03時に佐渡島付近で温帯低気圧となり、速度を上げながら北北東に進み、23日09時にオホーツク海で消滅した。

#### (9) 台風第21号 (1721 LAN)

10月15日15時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低

気圧は北西に進み、16日03時に同海域で台風第21号となり、進路を西南西に変えた。台風は進路を急激に北へ変えた後、18日には進路を北西に変えた。台風は、進路を北東に変えた後、徐々に加速しながら22日03時に南大東島の東で勢力が最大となった。台風は速度を速めながら北東に進み、23日03時頃に静岡県掛川市付近に上陸し、関東地方を北東へ進んだ後、23日09時に日本の東で温帯低気圧となり、24日09時に千島近海で消滅した。

#### (10) 台風第22号 (1722 SAOLA)

10月22日15時にトラック諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、24日21時にマリアナ諸島の西海上で台風第22号となった。台風は引き続き北西に進み、進路を北に変えた後、28日03時に沖縄の南で勢力が最大となった。台風は、進路を北東に変え、28日14時前に沖縄県沖縄本島付近を通過した後、29日21時に千葉県南東沖で温帯低気圧となり、30日03時に消滅した。